太刀　号　青海波

銘（表）備前國長船住弘次作（びぜんのくにおさふねじゅうひろつぐつくる）　柳匠堂重恒彫（りゅうしょうどうしげつねほる）
（裏）以戦艦陸奥防禦鋼板鍛（せんかんむつぼうぎょこうばんをもってきたえる）　令和元年牡丹華（れいわがんねんぼたんはなさく）

青海波の名前の由来

青海波という縁起のよい模様には、「太平の世がいつまでもつづくように」という願いが込められています。
戦艦陸奥と同じく海と関連するものであり、平和への願いが込められているため、「青海波」の号を採用しました。

鑑賞ポイント

刀身の途中から鋒(切っ先)にかけて、刃が両側についている剣のような姿をしています。
似たような姿をしている刀に小烏丸（こがらすまる）がありますが、青海波は小烏丸と比べると鋒がより鋭く、鎬（しのぎ）が棟側に寄っています。

写真提供：刀剣画報編集部（株式会社ホビージャパン）
写真撮影：羽田洋

波浪図銀地一重鎺（はろうず ぎんじひとえはばき）

水龍剣（東京国立博物館蔵）の鎺を参考に製作されました。
佩裏の桜に錨の彫刻と揃うことで情景が完成します。
本科の鎺は金無垢（純金）製ですが、青海波の鎺は落ち着いた印象にするため銀無垢（純銀）で製作されています。
岡山の金工・片山重恒氏の作。

地鉄（じがね）と刃文（はもん）

地鉄と刃文は刀剣鑑賞でも重要な要素です。
刃側の白い部分は研ぎによって生じた『刃取り』という部分になります。刃取りの中で光が当たると線のように見えるものが刃文です。
青海波は、穏やかな波のような直刃（すぐは）が主体の刃文をしています。
地鉄は刃以外の部分の鉄を指しますが、青海波は陸奥鉄を混ぜた関係からやや青みがかった色味も特徴の一つです。

一般財団法人
群青財団